

1 外科一般に関する事項

1) 救急蘇生と呼吸循環管理

- ア) 気管内挿管
- イ) レスピレーターによる器械呼吸
- ウ) 気管内吸引と気管内洗浄
- エ) 心マッサージ
- オ) 中心静脈圧測定
- カ) 直流徐細動
- キ) 救急薬物投与方法

2) 輸液・輸血と栄養管理

- ア) 輸血
- イ) 輸液
- ウ) 鎖骨下静脈穿刺
- エ) 高カロリー輸液
- オ) 経管栄養

3) その他

- ア) 緊急内視鏡検査
- イ) バルーンタンポナーゼによる食道静脈瘤出血の止血
- ウ) 胃管挿入
- エ) 胃洗浄
- オ) 腹腔穿刺・ドレナージ
- カ) 胸腔穿刺・ドレナージ
- キ) 浣腸と高圧浣腸
- ク) 導尿
- ケ) 持続的血液浄化法
- コ) イレウス管挿入法
- サ) 心嚢穿刺、ドレナージ
- シ) 緊急血管造影（腹部、骨盤）

2 外科に必要な検査

1) X線検査

①一般的X線検査

- ア) 胸部X線
- イ) 腹部X線
- ウ) 食道造影
- エ) 胃・十二指腸造影
- オ) 大腸・小腸造影
- カ) 気管、気管支造影

②特殊X線検査

- ア) 低緊張性十二指腸造影
- イ) 選択的血管造影
- ウ) 超音波誘導下穿刺造影（PTC、PTBD等）

2) 内視鏡検査

①一般的内視鏡検査

- ア) 食道内視鏡検査
- イ) 胃・十二指腸内視鏡検査（生検・摘除を含む）
- ウ) 大腸・直腸内視鏡検査（生検・摘除を含む）
- エ) 気管支鏡

②特殊内視鏡検査

- ア) 食道静脈瘤の内視鏡的硬化療法

- イ) 内視鏡的逆行性胆道膵管造影
- ウ) 超音波内視鏡検査
- 3) その他の検査
 - ア) 腹部超音波検査
 - イ) 頸部、胸、縦隔、腹部CT
 - ウ) 頸部、縦隔、乳腺、腹部MRI
 - エ) 術中・術後の造影
- 4) その他の特殊検査及び治療
 - ア) 肝動脈塞栓術
 - イ) 経皮的エタノール注入療法
 - ウ) 内視鏡的粘膜切除

3 外科手術の経験

- 1) 術者として
 - ア) ヘルニア根治手術
 - イ) 虫垂切除術
 - ウ) 気管切開
 - エ) 胃瘻・腸瘻増設術
 - オ) 痔核手術
- 2) 第1助手として
 - ア) 胆嚢摘出術
 - イ) 胃腸吻合術
 - ウ) 痔核・痔瘻手術
 - エ) 甲状腺手術
 - オ) 乳腺手術
- 3) 第2助手として
 - ア) 幽門側胃切除術
 - イ) 胃部分切除術
 - ウ) 大腸切除術
 - エ) 肝部分切除術
 - オ) 肺手術
- 4) その他
 - ア) 胸部食道切除再建
 - イ) 直腸切断術
 - ウ) 肝葉切除術
 - エ) 膵切除術
 - オ) 胃全摘術

3) 腫瘍外科

臨床医にとって最も重要な疾患であるがんの全人的治療の基本を習得する。

G I O :

- 1) がん患者の身体的、精神的、社会的側面を重視した患者主体の医療を学ぶ。
- 2) がんの標準的治療を学ぶ。
- 3) 患者と全ての医療従事者とのチームワークの取れたがん医療を学ぶ。

- 1. 主要な悪性新生物（胃癌、肺癌、肝癌、大腸癌など）のリスク因子をあげ、早期発見、予防対策を述べることができる。 _____
- 2. 悪性腫瘍の初期症状、腫瘍マーカー、検査法を述べるができる。 _____
- 3. がんの早期診断法を学ぶ _____
- 4. がんの進行度診断を学ぶ _____
- 5. 臨床的病期分類ができる。（例えば早期胃癌の定義） _____
- 6. がん治療における抗ガン剤治療の適応と限界を学ぶ _____
- 7. がん治療における放射線治療の適応と限界 _____

以下に示すような各領域に属する代表的ながん患者を受け持ち、種々のがんの標準的外科治療を学び、基本的知識、技能を修得する。

- 1 消化器：食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がん
- 2 呼吸器：肺がん、縦隔腫瘍、胸膜悪性腫瘍、転移性肺がん
- 3 婦人科：子宮頸癌、体癌、卵巣がん
- 4 泌尿器：腎臓がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、副腎腫瘍
- 5 頭頸部：舌癌、咽頭癌、喉頭癌、甲状腺がん、
- 6 脳：グリオーマ、転移性脳腫瘍
- 7 骨、軟部組織：骨肉腫、その他の軟部腫瘍
- 8 乳腺：乳がん

SBO：

1. 各がん患者の問診法と診察法を学ぶ。
2. 手術前後の適切な検査法について説明できる。
3. 上記に述べた代表的各科のがんについての診断法と標準的な治療法を説明できる。
4. がんの存在診断、転移部位、進行度診断ができる。
- 3, 進行度診断からみた、また患者の全身状況から見た外科治療適応の判断ができる。
- 4, 各がんの手術に参加し、経験したほうがよい主ながんの手術の手順を経験する。
- 5 がん手術後の術後管理ができる
- 6, がん患者の精神的ケアができる
- 7, 病理検査の結果から、がんの進行度を理解できる
- 8, 併用すべき治療に関して適応を理解できる。

4) 腫瘍内科

G I O：

がん医療の基本的立場に立ち、

- 1) 患者の身体的、精神的、社会的側面を重視した患者主体の医療を学ぶ。
- 2) 種々のがんの標準的内科治療法を学ぶ。
- 3) 患者と全ての医療従事者とのチームワークの取れたがん医療を学ぶ。

SBO:

腫瘍に関する基礎的な病態生理学的メカニズムおよび臨床検査、画像診断、治療について研修する。

1. がんの病因論 _____
2. がんの早期診断法を学ぶ _____
3. がんの進行度診断を学ぶ _____
4. 悪性腫瘍特有の腫瘍マーカーを理解する _____
5. 早期がんの内科的治療を学ぶ _____
6. がん治療における抗ガン剤治療の適応と限界 _____
7. がん治療における放射線治療の適応と限界 _____
8. 化学療法剤、生物製剤、臨床適応と禁忌 _____
9. 種々の集学的治療の実際を学ぶ.. _____
10. その治療に伴う副作用を十分理解し、適切な予防法もしくは対処法を行える _____
11. 骨髄移植、末梢血幹細胞移植の基礎、適応、および合併症 _____
- 12.supportive care について述べ、実施できる。 _____
13. 疼痛を始めとする各種身体的臨床症状に対して病態の機序を診断でき、その機序に見合った適切な治療が行える。 _____
14. 精神的ケアが十分できる _____
15. 患者とその家族との社会的関係を理解し、在宅をも視野に入れた最適な療養の場を提供出来るよう配慮できる。 _____

16.

経験すべき疾患

- 1 胃癌の化学療法
- 2 再発もしくは転移合併乳ガン
- 3 肝細胞がんの肝動脈塞栓療法
- 4 肝癌に対する各種動脈内化学療法
- 5 肺癌の化学療法
- 6 血液がんの化学療法
- 7 泌尿器科化学療法
- 8 その他

5) 小児科

G I O : 初期研修から得られた知識をもとに、一般小児科医として臨床の手技を磨き、入院及び外来患者の診療に携わりながら、小児の各種疾患について研修する。小児の正常な発育を熟知し、適切な発育指導ができるよう研修する。指導者のもと小児科の診療の中でも最も頻度が高い、感染症、アレルギー疾患について診断治療ができる。小児の救急疾患（発熱、痙攣、意識障害、呼吸障害、嘔吐、下痢、腹痛等）への対応が確実にできる。特殊な疾患（新生児疾患、心疾患、神経疾患、腎疾患、代謝内分泌疾患、血液疾患など）の鑑別判断及び治療計画ができ、場合により適切な紹介ができる。

S B O :

1) 一般的診療能力

- a) 患者及びその養育者、特に母親との間に好ましい人間関係を作り有用な病歴を得られる。 _____
- b) 正しい手技により診察ができ、これを適切に記載し整理できる。 _____
- c) 患児の問題を正しく把握し、必要な検査を選択できる。 _____
- d) 病歴、診察所見、検査所見から総合的に適切な診断を下すことができる。 _____
- e) 個々の疾患や障害に対して考えられる治療法の中から、最も適切な治療法を実施できる。 _____
- f) 病歴の記録は、問題解決志向型病歴記載（P O M R : Problem Orientated Medical Record System）とするよう工夫する。入院患者については、退院要約を作成できる。 _____

2) 以下の検査手技に習熟し、指導者のもと自ら経験し、自ら実施できる。その結果を解釈できる。

- a) 静脈採血、毛細血管採血 _____
- b) 動脈採血 _____
- c) 検尿 _____
- d) 腰椎穿刺 _____
- f) 検便 _____
- j) 血清ビリルビンの簡易測定 _____
- k) 血液ガス分析 _____
- l) 心電図 _____
- m) 血糖の簡易測定 _____

p) 末梢血の一般血液検査（赤血球、白血球、血小板数、出血凝固検査、血液型検査、交叉試験） _____

q) 髄液の一般検査 _____

3) 以下の検査を指導医のもとに選択し、指示し、結果を解釈できる。

- a) 血液生化学的検査 _____
- b) 血液免疫学的検査 _____